

平成 26 年度 第 2 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	平成 26 年 (2014 年) 6 月 17 日 (火) 18:15～20:10	
場所	滋賀県庁北新館 5-A 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	大山 明彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	川崎 竹志	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	川端 隆弘	公益財団法人淡海環境保全財団
	北田 俊夫	NPO 法人びわこ豊穰の郷
	小松 直樹	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐藤 祐一	琵琶湖環境科学研究センター
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	中村 満	湖南・甲賀環境協会／NPO びわ湖環境
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部／琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
	藤田 知丈	暮らシフト工房
	三和 伸彦	滋賀県化学・環境行政職員同友会
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課

※今回欠席（敬称略）：伊吹美賀子（湖南流域環境保全協議会）、小林泉（滋賀県理事員）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、平山奈央子（滋賀県立大学環境科学部）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、松沢松治（びわ湖の水と地域の環境を守る会）、村上悟（NPO 法人碧いびわ湖）、山口美知子（滋賀地方自治研究センター）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）、南部陽子、廣田大輔、森俊彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

今回の決定事項（要約）

- ・ 8/23 のびわコミ会議の内容や当日の進行について確認した。各個人のコミットメントと、午後の各グループでの話し合いで出てきたキーワードをもとに、イベント参加者の今後 1 年間の目標になるような「みんなのコミットメント」を決める。プログラムの詳細は、今後、事務局 WG や当日の進行役（ファシリテータ）である川本勇氏を中心に詰める。
- ・ チラシが 5,000 部完成した。各団体に持ち帰っていただいたほか、淡海ネットワークセンターや碧いびわ湖の DM にも入れてもらう。また、ホームページにチラシデータをアップしたほか、Facebook ページも開設した。メンバー各位による情報拡散を。

1. びわコミ会議の準備状況について

8 月 23 日に予定しているびわコミ会議のプログラム内容について確認を行った。

(1) 第1部(みんなつながる報告会)の5団体の状況

- ・ チラシでは、3 つめの「オオバナミズキンバイ駆除大作戦」の協働団体に「小津学区自治会」とあるが、正確には「小津学区自治会長会」（チラシへの転記ミス）。
ただ、チラシ通り「小津学区自治会」としても支障はない。
- ・ 上記以外は、5 つの報告内容に関して、チラシに掲載されている情報からの追加訂正等はなかった。

(2) 第2部(びわ湖のこれから、話さへん?)の9(+1)団体の状況

- ・ テーマ2の「源流」とは、河川の最上流域ではなく、ゴミ等の発生源を意味する。
(参加者が誤解しないよう要注意)
- ・ テーマ6の進行役は野田氏ではなく藤田始史氏。(チラシの転記ミス)
- ・ テーマ9は、前回運営委員会後に仁枝氏と確認を取り、新たに追加した。
→仁枝氏は淀川レンジャーだが、琵琶湖河川レンジャーとの兼ね合いについても要確認。
- ・ テーマの追加公募について、「おおつ環境フォーラム」から問合せがあった。
- ・ 第2部の各テーブル担当団体の代表者等には、事前に一度集まっていたいて、各々のテーマが「マザーレイク21計画」のどの部分に該当するかを具体的に認識してもらったうえで各テーブルを運営してもらえよう意思統一する。(事前説明会の主担当=佐藤)
各テーブルの担当団体には、所定の報告用紙に、テーブルで話し合われた内容の記録と合わせて、マザーレイク21計画の進捗について「すでにやられていると思うこと」「実現に向けて課題があると思うこと」を具体例とともに記入してもらうことにより、「進行管理」というMLF本来の目的を果たす。(別紙「第2部の話し合いふりかえりシート(案)」を参照)

(3) ブース展示の状況

- ・ 25団体程度を受け入れ可能。先着順なので、ブースを希望する団体は早急に申し込んでほしい。
- ・ 展示スペースは、1団体あたり長机1/2脚およびそれと同幅のパネルボード。

(4) エクスカーションの状況

- ・ チラシに掲載されている5つのエクスカーションの情報については、特に修正等はなかった。
- ・ 碧いびわ湖、びわこ豊稔の郷および守山市域の水環境保全に関わる諸団体の関係者を集めて、地域連携について話し合う場を7月中旬頃に企画。(追加のエクスカーション企画と位置づけるかどうかは未確定)

(5) その他

- ・ 午前の発表団体、午後のテーブル担当団体には、必ずMLFにエントリーしていただく。
発表者の協働団体についても、任意でMLFへのエントリーを依頼する。
- ・ チラシ印刷以降の最新情報の発信については、Web上のチラシPDFデータを書き換え・更新するのではなく、交流掲示板等に対応する(テキストベースでの最新情報の掲示も検討する)。

(6) 川本勇さんの参加について

- ・ 6/10に佐藤・藤田・三和・望月・森で川本勇さんと打ち合わせをした。情報をさらに広げ、参加者に思いをしっかりと伝えるため、勇さんに当日進行役をしていただくことになり、打ち合わせの場でいろいろ提案もいただいた。その中に、「個人のコミットメントだけでなく、次のステップとして、全体としてのコミットメント(=条例)づくりを考えていってはどうか」といったアイデアもあった。
- ・ 勇さんには、みんなの意見や思いを巧みに引き出してまとめていく「ファシリテータ」としての役割を担っていただく。

- ・ 「条例」というと権威的な印象がつかまとうので、各参加者個人の「コミットメント」や、午後の話し合いで各テーブルから出された「キーワード」を集約した「みんなのコミットメント」（＝みんなで共有すべき目標）をとりまとめる方向で考える。
- ・ 今後、事務局 WG と勇さんとで企画詳細をさらに詰めていく。

(7) 当日の進行について（詳細は別紙「進行シナリオ素案」を参照）

- ・ 第1部は、全体進行を勇さんとし、5団体からの報告に関する情報を提供するデータマンを佐藤が担う。「びわ湖なう」は小松が担当。必要に応じ「旗揚げ」を使うなどして会場とのやりとりも行うが、午前中はほとんど時間に余裕がない。
- ・ 昼休憩の時間を利用して、可能な参加者には「私のコミットメント」を書いて提出してもらおう（午後の全体セッションまでにできるだけ目を通し、分類作業をしておくため）。ただし、参加者は、午後の話し合いをしてからコミットメントを書くこともできる。
- ・ 第2部の10テーブルに別れての話し合いは、昨年は50分×2ラウンド行ったが、今回は80分×1ラウンドとし、そのあと再びメイン会場に全員集まって全体セッションを行う。話し合いの直後に「私のコミットメント」を書いてもらう時間を設け、休憩前に提出してもらおう。全体セッションは、勇さんをメイン・ファシリテータとし、各テーブルからの「キーワード」と、参加者の「私のコミットメント」を適宜紹介しながら、翌年のびわコミ会議での検証にも使えるような「みんなのコミットメント」をとりまとめる。随時、旗揚げ等を利用して会場の意見の集約を図る。
- ・ 各テーブルからの「キーワード」は複数挙げてもよいかや、各テーブルで「キーワード」を話し合っただけで決める必要があるかなど、細かいルールは今後の打ち合わせ時に決める。
- ・ 最後にステージ上で「記者会見」を行い、記者とのやりとりの様子を参加者にも見ていただく。
- ・ 知事には昨年同様、第2部から参加していただいで途中にご挨拶をいただきたいが、知事選の結果等により流動的。

(8) 広報の状況について

- ・ チラシが5,000部刷り上がった。このチラシの目的は、200人の参加者を集めることだけではなく、マザーレイクフォーラムやその取組について一人でも多くの県民に広く知ってもらいたいことあるため、枚数を大幅に増やした。MLF事務局からの郵送に加え、淡海ネットワークセンターや碧いびわ湖のDMに同封させていただきほか、各委員が所属する団体等でも積極的に活用していただきたい。
- ・ Webサイトにびわコミ会議の情報とチラシデータをアップしたのとあわせて、MLFのfacebookページとびわコミ会議のfacebookイベントページを新たに作成・公開した。facebookのSNS機能を活用して情報拡散にご協力願いたい。
- ・ 近日中に、県庁でのプレスリリースを予定している。
- ・ 各種メールリングリスト等にも発信する予定。

2. 各ワーキングからの報告について

- ・ 今回は、上記のびわコミ会議関連以外、特に各WGの動きはなかった。

3. その他

- ・ 次回の運営委員会は 8 月 18～20 日のいずれかで開催予定。

－ 以上 －